

ACT!

 **MEDECINS SANS FRONTIERES**
国境なき医師団


1999年
ノーベル平和賞受賞

支援者さまと国境なき医師団(MSF)をつなぐニュースレター

2023年10月号

スーダン危機

避難を強いられた人びとへ医療を



子どもが命の危機にあるため、MSFの支援する病院に急いで向かう、隣国のチャドに逃れた人びと。

© MSF/Mohammad Ghannam

今春、スーダンの首都ハルツームでぼつ発した武力衝突以来、多くの市民・子どもたちが空爆や砲撃の犠牲に。国内外への避難を余儀なくされた人びとにいま、新たに迫る危機、必要な医療とは？ スーダン国内と近隣諸国での援助活動についてお伝えします。

財務・活動報告 2022 …… P4

皆さまの貴重なご支援のおかげで
実現できた医療・人道援助の記録

チーム国境なき医師団の輪 …… P6

MSF連絡帳 …… P7

遺贈寄付相談室だより …… P8

長引く紛争で医療体制が崩壊。 苦境にある人びとに、MSFができることは？

4月15日以来、スーダン軍と即応支援部隊と呼ばれる準軍事組織との紛争による被害が甚大化しています。首都ハルツームなどでの空爆や砲撃を逃れ、家を失った国内避難民は約340万人[※]に。91万人以上[※]がエジプトやチャドなど隣国への避難を強いられました。

スーダンは元々、混乱が続く南スーダンなど近隣諸国から多くの避難民を受け入れてきた国。「命からがら逃れて来た人びとが避難

先で再び空爆や流れ弾の犠牲になっています。手術が必要な重症患者が次々運ばれ、病院の廊下にあふれかえるほど。その多くは子どもたちでした」。北ダルフール州での活動を率いるシリス・ペイは開戦当初の様子を振り返ります。

スーダンでは昔から衝突が絶えず、医療が不足しているため、国境なき医師団 (MSF) は長年、妊産婦健診や分娩介助、栄養失調の

子どもへの治療を続けてきました。今回の紛争によってスーダン全土で医療体制の崩壊が続く中、これまでの経験を生かし、MSFは緊急援助を速やかに開始。国内の12州でニーズに合わせて医療援助を拡大しています。

移動診療での治療や予防接種を

もう一つの課題が、国内外の避難民キャンプに身を寄せた人びと



多くの医療機関が閉鎖したため、稼働しているハルツームの病院には、大勢の負傷者が押し寄せた。



雨期ではしかの流行が懸念される中、チャドの仮設キャンプでは、8145人の子どもたちに予防接種を行った。

への支援です。食料や安全な水が不足した過酷な生活環境に加え、感染症の流行や栄養失調など、命にかかわる「新たな危機」が迫っているからです。そこで、MSFは国内の複数のキャンプで移動診療を開始。5月にはジャジーラ州で、呼吸器感染症などの患者ら1600人以上を治療し、糖尿病などの慢性疾患やマラリアの治療、予防接種を実施しました。国境を

越え、36万人以上[※]もの人びとが逃れているチャドでも外傷治療や、子どものはしかの予防接種、栄養失調の治療に注力しています。

今後、停戦が実現しても、家や畑を失った人びとが日常を取り戻すのは容易ではありません。難局がゆえに多くの活動団体が撤退したスーダン。皆さまからのご寄付を力に、MSFは活動を続けます。

[※] 国連難民高等弁務官事務所(2023年8月)



4月21日、武力衝突の直後、不穏な黒煙が立ち上る首都ハルツームの近郊。



…… 7月時点でMSFが活動中の12の州。

MSFスタッフの声

戦火の病院でも 重傷患者の 命を繋ぎたい

シャジード・マジード(外科医)

スーダンでの紛争拡大を受け、ハルツーム南部の病院に緊急赴任しました。以来、避難中に流れ弾に当たり苦しむ子どもや、胸部や腹部内臓に銃撃や刺し傷を負い生死をさまよう人びとを毎日受け入れ、MSFは何百件もの外科手術を実施。紛争による外傷のすさまじさに胸を痛めながら、救急・外科治療に当たっています。私たちが活動を始める前は混乱のあまり手術室や救急室がほぼ機能していない状態。そこで、複雑なけがを負った患者さんへの血管再建手術もできるように手術室の環境・医療物資を整え、手術に不慣れなスタッフへの指導に奔走しました。紛争に巻き込まれ、体と心の両方に大きな傷を抱えた人びとを一人でも多く救う——。その一心で現場に立ち続けています。



命の危機にある患者さんの手術に、一丸となって取り組む外科チーム。

スーダンって どんな国？



- 人口 ● 4281万人[※]
- 国土 ● 188万平方キロメートル (日本の約5倍)[※]
- 宗教 ● イスラム教、キリスト教、伝統宗教[※]
- 言語 ● アラビア語(公用語)、英語、他多数[※]
- 主要産業 ● 鉱業、農業、林業、畜産業、漁業[※]
- その他 ● メッカへの通道路のため、さまざまな地域の人びとが昔から巡礼で往来する、国際色豊かな国。

[※] 外務省「スーダン共和国基礎データ」

MSFの原則

紛争地で安全に 活動するために

危険な紛争地で、より安全に活動するために3つの原則を守っています。

Point ① 徹底した対話

紛争地にある病院では、対立する軍の兵士が同時に治療を受ける場合もあります。こんな時は当事者二人と徹底した対話を尽くし、MSFは「中立」の立場であることを理解してもらい、医療援助を安全に遂行しています。

Point ② 活動地の文化の尊重

さまざまな価値観が入り交じる活動地では、「自分たちは部外者である」という謙虚な姿勢を示すことも大切。現地の人びとの宗教的な風習や文化を尊重することで、無用な攻撃から病院やスタッフを守れるケースも。

Point ③ 質の高い医療の提供

MSFは医療技術や患者さんへの接し方を含めて、質の高い医療の提供に努めています。数ある活動団体の中でも「MSFは地域に必要」と人びとに認められることが、紛争地での安全確保にもつながっています。

最新情報はウェブサイトから

刻々と変わる現地の状況と、ニーズに合わせて変化するMSFの活動。ウェブサイトで最新情報をお伝えしています。

- スーダン国内はいまどんな状況？
- 近隣国に逃れた人々への援助は？
- 日本人スタッフが語ることは？



現地活動責任者を務めた落合が、当時の様子を動画で語ります。同封したお手紙と併せて、ぜひご覧ください。



スマートフォンから

財務・活動報告 2022

国境なき医師団 (MSF) 日本の2022年度財務・活動状況の
ハイライトをお届けします。
皆さまの貴重なご支援のおかげで実現できた
医療・人道援助の記録です。
日頃のお力添えに深く感謝申し上げます。

2022年、
日本からは
26の国と地域へ
89人(延べ**119**回)を
派遣しました。

… 日本からスタッフが派遣された国・地域
… その他のMSFの活動国・地域
現地調査など小規模な活動のみは含まれません。

… 海難救助活動

※地図上に写真を掲載し、
国名・派遣人数を記載している5カ国は、
日本からのスタッフ派遣人数が多かった国々です。

ウクライナ 13人



現地スタッフとともに、医療物資の提供
や砲撃で破壊された病院の修復支援など
を担当 (アドミニストレーター、右から2
人目)

アフガニスタン 7人



救急外来で、現地の医師の
指導監督や迅速な超音波検
査方法などの教育を担当
(救急医、左から2人目)

南スーダン 15人



現地の産科や小児医療をサポート。特に
困難なお産の補助や帝王切開を担当 (産婦
人科医、左)

イエメン 14人



新生児科・小児科の診療や現地の医師・看
護師のトレーニングを担当 (小児科医、左
から2人目)

イラク 7人



助産師や看護師など
現地の産科スタッフの
指導や教育を担当
(助産師、左)

MSFの活動実績(一部)

外来診療件数 **1627万2300**件

はしかの予防接種を
行った件数 **412万4700**件

入院患者数 **121万4100**人

入院栄養治療プログラムを
受けた重度栄養失調児数 **12万7400**人

詳しくは活動報告書2022年度版を
ご覧ください。
<https://www.msf.or.jp/publication/>



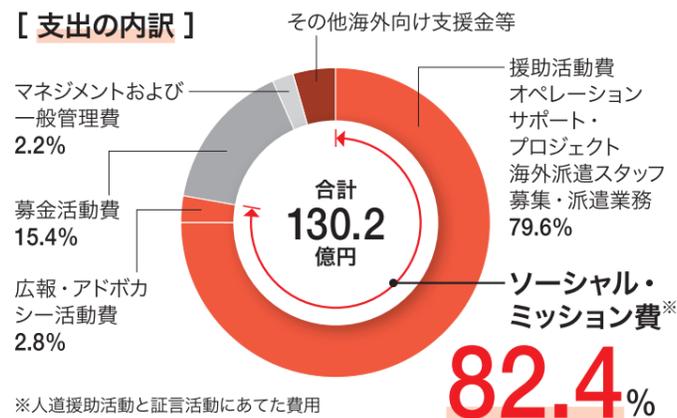
国境なき医師団日本

ご支援くださった**日本の**皆さま **41万8122**人

[収入の内訳]



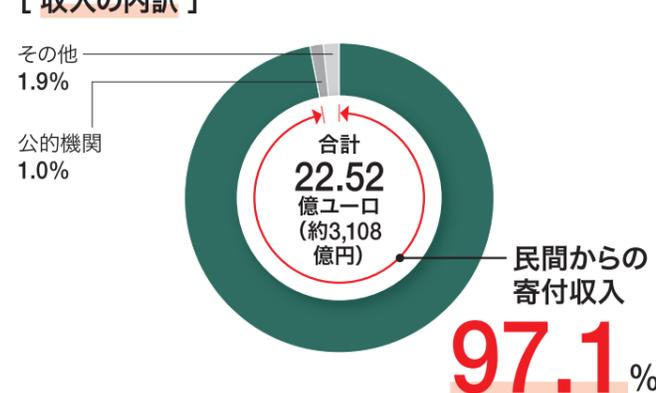
[支出の内訳]



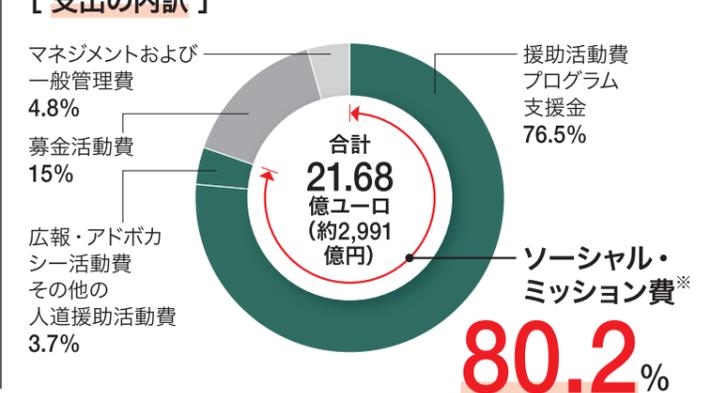
国境なき医師団全体

ご支援くださった**世界の**皆さま **700**万人以上

[収入の内訳]



[支出の内訳]



あなたとつながる、ひろがる。

チーム国境なき医師団の輪



国境なき医師団 (MSF) の初派遣者への応援メッセージを『ACT! 4月号』と公式SNS上で募ったところ、温かなお声をたくさん頂戴しました。今号ではお声の一部と、初派遣者の近況をお伝えします。

日 本にいて、生活しているいましか目に映らなくても、世界中にチャレンジしている方がいらっしやることを思うことで、**力が湧いてきて、体が温かくなる**ようです。ありがとうございます。(岐阜県 E.I.様)

SNSより

おいしい食事も、住みやすい住宅も、娯楽も、安全な生活も手放して、他国に行く方々、とても尊敬しています。頭が下がります。どうぞ、安全に活動なさってください。

SNSより

頑張ってください！ 尊敬します！ 現地で何かつらいことがあったら、ぜひここに応援している人がいることをいつでも思い出してくださいね。気をつけて行ってらっしゃいませ！

皆さんの顔が輝いて見えます!! 素晴らしいです!! 今度産まれてきたならば私も絶対めざしたい!! いつも、ご無事と健康を祈っています。

戸 惑うことがあっても、困ることが起きても、不安な気持ちになってもそれは、みんなが経験する、試されているハードル。私たちは、**夜空に輝く星や、空に輝く太陽や大地を吹く風になり日本から皆さんを応援します。**いつも一緒にいます!! でも、**自分に限界を感じたら無理はしないでください。**それも志の高さのひとつです。ファイト!! (埼玉県 竹ノ内様)

ぜひフォローしてください



公式SNSでは活動の最新状況のお知らせだけでなく、上記のようなメッセージの募集といった、皆さまとつながるための投稿も行っています。ぜひご覧ください!



皆さまのお声が、初派遣者たちの力に。引き続き応援をお願いいたします!

● 病院唯一の小児科医として命に向き合っています

金子光延 (小児科医、活動地: タンザニア)

ンドウタという場所にある病院で、唯一の小児科医として活動しています。重症の子どもが多い中、限られた治療手段しかないことに歯がゆさを覚えることもあります。懸命に治療を続ける現地スタッフの姿

に鼓舞されています。ここでは、日本人というだけで珍しがられたり敬遠されたりして、ちょっと孤独を感じたことも。そんな時に皆さまのメッセージを読み、大きな力をいただきました。



難民キャンプで生活しながらMSFの看護師として働くスタッフ(左)と金子。

● 苦しい経験も特別な経験だと思えるように

高見唯香 (助産師、活動地: バングラデシュ)

派遣されて7月で約1カ月。到着直後は右も左もわからない状態で情報の波に圧倒されていましたが、仲間たちのやさしさに救われて、やっと現地のシステムを理解し始めたところです。この1カ月、皆さまからのメッセージを読むたびに、特別な経験をさせていただいていることを実感し、胸が熱くなりました。初心の気持ちを思い出し、引き続きがんばってまいります。



現地の助産師たちにトレーニングを行う高見(左)。

● 長かった最初の3カ月。少しずつ気持ちが楽に

久富 俊 (ロジスティシャン、活動地: リベリア)

調達チームのマネジャーとして、活動に必要な物品の調達を担当しています。最初の3カ月の正直な感想は、「長かった〜!」。特にリベリア英語の聞き取りに苦戦し、このまま働けるかと不安でした。ですが最近、できること・できないことを周りのメンバーに認識してもらえて気持ちがずいぶん楽に。皆さまの熱いメッセージからも、自分の仕事の必要性を再認識することができました。



4人の現地スタッフをまとめる役割の久富。

MSF連絡帳



支援者対応担当から皆さまへ

寄付の税制優遇措置(寄付金控除)について

国境なき医師団(MSF)日本への寄付は「確定申告」を行うことで寄付金控除の対象となります。申請の際には、MSF日本が発行した領収書が必要となります。なお、年末調整では寄付金控除の申告は行えませんのでご注意ください。

領収書のお届け時期について

「毎月の寄付」でご支援の皆さま

- 2024年1月下旬までに、2023年度年間領収書をご登録住所宛てにお送りいたします。

「今回の寄付」でご支援の皆さま

- MSF日本への入金確認後、都度発送しております。
- 1年分まとめて発送の設定にされている方には、2024年1月下旬にご登録住所宛てにお送りいたします。

2023年度の税制優遇措置(寄付金控除)対象の寄付のお申し込みについて

2023年11月以降のお申し込みで2023年度の寄付として領収書をご希望の方は、ゆうちょ銀行へのお振り込み(2023年12月末日付の振込完了まで)をお願いいたします。その他のお支払い方法の場合、11月以降のお申し込みは2024年度(来年度)の寄付となる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

© Ayano Kinoshita

確定申告をする人は必見だよ!



領収書について、詳しくはこちら



ご好評いただいたイベントがゲームに! 謎解きオンラインゲームでMSFの活動を体験

深刻な人道危機が続く南スーダンについて、MSFが過去に実施した人気イベントが、オンラインゲームになりました(有料)。現地にMSFのスタッフとして派遣され、難題をクリアしながら患者さんの命を救うゲームで、皆さまのご自宅MSFの活動を疑似体験していただけます。詳細・購入方法は、以下の二次元コードからタカララッシュ社のウェブサイトでご確認ください。



スマートフォンから



年末に向けての片付けで出る 不要なものを生かして寄付

切手/はがき、本、CD/DVD、ブランド品、宝飾品など、大掃除で出てきたものがMSFへの寄付になります。買い取りサービスを通じた寄付方法は、気軽にご支援いただける方法としてご好評いただいています。→ご寄付方法の詳細はウェブサイトからご覧ください。



スマートフォンから



© Yuzuko

遺贈寄付

相談室 だよ

9月13日は国際遺贈寄付デー。日本でも関連イベントが盛り上がりを見せました。いま注目される遺贈寄付をより多くの方に知っていただきたくて、4コマ漫画を作りました。右の奮闘中のネコさんたちを、ぜひご覧ください！



© FCNT LIMITED

イチから分かる

コラム始めました!

「遺贈」や「相続」、「遺産からの寄付」に関して、注意したいこと、知っておくとよいことを、専門家の監修のもと、できるだけ分かりやすく解説しています。



スマートフォンから

遺贈に関するご相談・お問い合わせ

遺贈寄付ってどうやるの? 相続税はどうなるの? など遺贈寄付に関する疑問は何でも気軽にご相談ください。秘密厳守、ご相談は無料です。

TEL 03-5286-6430

Eメール: legacy@tokyo.msf.org

平日10:00~17:00 / 担当: 荻野、今尾



© MSF



© MSF

お待ちしております!

『ACT!』のアンケートにご協力ください

今号の『ACT!』はいかがでしたか? ぜひ皆さまのご感想をお聞かせください。また、今年リニューアルした『ACT!』のデザインなどについてのご意見もお待ちしています!

締め切りは11月30日(木)中です。

ご協力くださった方の中から抽選で10名様にMSFオリジナルランチバッグを差し上げます。



メールマガジンのご登録はお済みですか?

ACT!のこぼれ話や、最新の活動情報、スタッフからのメッセージ動画(12月配信予定)などをメールでお届けしています。ぜひ、メールマガジンのご登録をお願いします!



ニュースレター **ACT!** 2023年10月号

発行元 特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 FORECAST早稲田FIRST 3階

寄付・ご登録情報に関するお問い合わせ

TEL 0120-999-199 通話料無料

平日9:00~18:00 / 土日祝日、2023年12月29日~2024年1月4日休業

※ご住所など、ご登録の情報についての変更や、「毎月寄付」の変更は上記までご連絡いただくか、マイページでお手続きください。

マイページ参照はスマートフォンから



国境なき医師団ウェブサイト www.msf.or.jp



※2023年8月の情報を基にしています。最新の情報は国境なき医師団ウェブサイトをご覧ください。